

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 28

2016年4月発行

平成 27 年度 冬季企画展

## なぞ、なぞ、昔の道具

連続講座 2015 後期

「火 - ひ -」



連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (二十二)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

## 展示のご案内

主催：NPO法人HICALI

平成28年度 企画展

形でみる書

ぼく、墨蹟 (ぼくせき)

～ I am Bokuseki ~

2016年 4月28日(木)～6月27日(月)

※会期中、一部展示替えあり

休館日 = 火曜日(5月31日(祝)を除く)、  
5月2日(月)・6日(金)・16日(月)・25日(水)



開館時間 = 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【観覧料】一般200円、高校・大学100円、中学生以下は無料

関連イベント

- 5月5日(祝) ギャラリートーク(学芸員による展示解説) 14:00～20:00
- 5月7日(土) 楠松灯籠の日(夜間開館) 18:30～20:30  
※無料のイベントです。

八尾市指定文化財  
安中新田会所跡 旧植田家住宅  
〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25 <http://kyu-uedakejutaku.jp/>



平成28年度 企画展

「ぼく、墨蹟(ぼくせき)」

2016年4月28日(木)～6月27日(月)

植田家に伝わる古今東西の墨蹟(書)の掛軸を中心に展示します。

※休館日は P15 をご覧ください

.....

# Contents

- 4 平成 27 年度 冬季企画展  
「なぞ、なぞ、昔の道具」
- 6 講座「中甚兵衛と大和川付け替え」
- 7 こどものためのお茶会  
／旧家で楽しむ落語会
- 8 連続講座 2015  
「火(ひ)」
- 10 研究の一と：ファイル11「ハリケーンランプ」
- 11 三会所だより (8)
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ㊸
- 13 植松のまち・ひと 一第17回一
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (二十二)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

## 《謎の箱》

数ある旧植田家住宅の収藏品の中で、何に用いられたのかわかっていない、横88cm×縦14cm×高さ12cmの正体不明の箱。企画展「なぞ、なぞ、昔の道具」でその正体に迫る。(本誌4・5頁を参照)



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

知ればなっとく！ 知らなきゃ謎！?

平成 27 年度 冬季企画展

# なぞ謎なぞ 昔の道具

2016年1月6日(水)～3月6日(日)



【謎レベル★★★】  
蘭引



【謎レベル★★】  
陶器製湯たんぼ



【謎レベル★★★★★】  
謎の箱



【謎レベル★★★】  
音消しの壺



提灯よりも釣鐘の方が軽い!!  
大津絵《提灯と釣鐘》(部分)

平成27年度 冬季企画展  
「なぞ、なぞ 昔の道具」

2016年、最初の企画展は「なぞ、なぞ、昔の道具」と題して、大人には懐かしくても「子どもにとつては謎」の昔の道具や、大人でも首をかしげる「全く謎」の民具を展示しました。また、昔のくらしにちなんだ「なぞなぞ」も多く集めて、来場者には頭を柔らかくしてもらいながら、展示を楽しんでもらいました。

この企画展では、それぞれの展示物に「謎レベル」を設け、例えば《火のし》・《こたつ》は★1つ(初級)、《盥洗》<sup>はいせん</sup>・《衣桁》<sup>いこう</sup>は★2つ(中級)、《蘭引》<sup>らんびき</sup>・《ハイトリック》は★3つ(上級)というように、謎を解くようにして展示を見るようになっていきます。また今回は特別に★5つ(特級)の展示品もあり、これに関しては調査をしても何なのか分からない、本当に「謎の道具」なのです。今回の展示は、この謎の道具の謎を誰かに解いてもらおうという目論みもありました。

ちよっと謎の道具 ★☆☆★★

少しだけ今回の展示内容に触れておくと、まずは大人ならば誰でも知っているはずの《火のし》、《こたつ》、《柄鏡》が初級です。それ



フライパンではありません  
ありません

【謎レベル★】  
火のし



布団をかけて使います

【謎レベル★】  
こたつ



【謎レベル★★】  
衣桁 見たことはあるけど意外に名前を知らない!?

着物を着て

「外に出よう」と

言っている道具って?!

ちやぶ台と箱膳、  
いつも箱膳が負けてしまう  
遊びって何?



「ちやぶ台」の上のなぞなぞ

上は大木、  
下は大火事、  
なくんだ?

昔のくらし古典なぞなぞ

「なぞなぞ」の定番!



【謎レベル★★★★★】

謎の器 よくみると特徴が微妙に異なる

「おもしろい謎」



「大津絵」と瓢筆の展示

ぞれ昔のアイロン、やぐらに布団、和鏡といえ  
ば察しがつきます。

続く中級は《盃洗》、《陶器製湯たんぽ》、《衣  
桁》ですが、意外に見た事はあるけど名前を知ら  
なかったり、湯たんぽも陶器製のものである  
など(ちなみに漢字では「湯湯婆」)、知らない  
物がまだまだあります。

そして上級は《蘭引》、《ハイトリック》、《音消  
しの壺》と、当時としてもあまり一般向きでは  
なかったような珍品ぞろい。こうした道具が  
実際に植田家で使われていたことを考えると、  
かなり特殊な家であったように思えます。

もっと謎の道具★★★★★

さて、今回の『植田家だより』の表紙にも  
なっている《謎の箱》と《謎の器》は特級として  
展示し、未だ正体があつかめていません。どちら  
も展示期間中に情報を集め、器の方は中国にも  
ある《筆洗》の可能性が高いことが分かりまし  
た。箱の方も「発電機ではないか」「糸を巻く道  
具」「鯉のぼりをあげる機械」「服のしわのぼし  
機」等、様々な意見や憶測が飛び交っています。  
何であれ、人が謎に直面した時に発揮される想  
像力や発想力というのはすごいものです。

(旧植田家住宅学芸員 安藤亮)

大和川付け替え関連

講座

なか じんべえ

# 中甚兵衛と

やまとがわ

つ

か

# 大和川付け替え



2016年3月13日(日)

講師：安村俊史氏(柏原市立歴史資料館)

一連の流れを資料に基づき、まずはその整合性について言及されました。現在では、中甚兵衛は明暦三年(一六五七)に十九歳(数え年)で江戸へ下り、すでに付け替えの訴えを起こしたと



資料に基づいて説明する安村氏

大阪で「大和川付け替え」といえば「中甚兵衛」というほどに著名な中甚兵衛ですが、この大阪における世紀の大事業といわれた大和川付け替えの工事、中甚兵衛が行なったという誤解もあり、これに対して「実際に付け替えを決定し、工事を行なったのは幕府である」ということを再認識させる講座が、旧植田家住宅で行なわれました。

大和川付け替え関連の講座として、今回は柏原市立歴史資料館館長の安村俊史氏を講師に迎え、その地理・歴史的背景や同資料館所蔵の中甚兵衛関連資料(中家文書)に基づいた意外な話を聴くことができました。ちなみに、安村氏にはこれまで「おひなさん」と「わら縄」の講座でも講師を務めていただきました。

さて、講座では大和川付け替え前のお話からはじまり、中甚兵衛による付け替え運動までの一連の流れを資料に基づき、まずはその整合性について言及されました。現在では、中甚兵衛は明暦三年(一六五七)に十九歳(数え年)で江戸へ下り、すでに付け替えの訴えを起こしたと

いわれはありますが、実際にはこの時期の資料は現存せず、想像によるものだという事です。また、中甚兵衛の付け替え運動は、ほぼ独断(単独)で進められたのではないかという予測を、安村氏は残された文書を手掛かりに立てられました。中甚兵衛は嘆願書の作成でもかなり大胆なことをしていたようです。

大和川付け替え推進派の古文書は、実はほとんどなく(反対の嘆願書は多数の村に残る)、中甚兵衛の人物像についてもよく分かっていないそうです。ただ言えることは、中甚兵衛の長年にわたる付け替え運動は、たくさんの人たちを動かす、大和川の流れを変えただけでなく、大阪の歴史をも大きく変えたということです。

今回の講座を通して、正しい歴史認識を伝えることの難しさを実感しました、今後さらなる資料が発見されることを願います。

(学芸員 安藤亮)



熱心に耳を傾ける参加者

# こどものためのお茶会



## 旧家で楽しむ落語会

### こどものためのお茶会

新年を迎えた2016年1月17日(日)、今年も「こどものためのお茶会」を開催しました。毎年楽しみにしているこどもや、今回は体験農園(畑企画)から畑メンバーも親子で参加をしてくれました。



今年も地元女性会の先生方にお茶のご指導をいただき、待ち合いではいつもの「豆運び」(お箸のトレーニング)を楽しみました。またこれまで簡略していた茶室の入室の作法から今回は始め、細かな動作を確認しながら子どもたちは慎重に茶室へと入っていました。

大人でもなかなか緊張するお茶会ですが、さすがこどもたちはその緊張感を感じながら、お茶とお菓子の味、お点前の所作、茶室の雰囲気をしっかり味わっている様子でした。小さな手に持つ大きなお茶碗が、少し大人になった気分させられます。



### 旧家で楽しむ落語会

2月7日(日)、こちらも毎年恒例の「旧家で楽しむ落語会」ですが、今年はかなり参加者が少なく、その分いつもより多くの笑いを出演者の方々にとつていただきました。

今年「火焔太鼓」<sup>かえん</sup>「ぶぐ鍋」「おごろ餅盗人」「二番煎じ」の各演目を、おなじみ天満天神の会の方々が演じ、建物の雰囲気と季節にぴったりの内容でした。また、時事ネタから地元八尾市の話まで、個性豊かで親しみのあるそれぞれのキャラクターも見所でした。

「旧家で楽しむ」ということですが、参加者はもちろん、出演者・関係者にも楽しんでもらえる企画として、今後も充分に取り組んでいきたいと思えます。次回は満員御礼を目指して。

(旧植田家住宅 スタッフ)



# 火

— ひ —

(全3回)



らんぷ

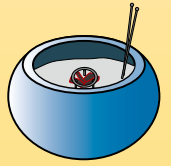
昔のくらしって  
暖かいの？  
明るいなの？



ろうそく



とうみょう



ひばち

連続講座2015年度・後期

## 「火ーひー」

昔のくらしや知恵などを学ぶ連続講座では、前・後期で、ひとつのテーマを決め、それぞれ全3回の体験講座を実施しています。2015年度の後期は「火」ということで今回は、近年ほとんどみなくなった冬の暖房道具「火鉢」と、実際にはどれほど明るかったのかが気になる昔の灯りの道具の体験をしました。

### 第1回「昔の道具で暖まろう！」

2016年1月31日(日)の冬の午後、まだまだ寒い旧植田家住宅で、第1回目の講座「昔の道具で暖まろう」が行われました。エアコンにストーブ、電気こたつなどがある現代からは想像できない昔の家の寒さと暖房の有り難味。このことを体験してもらおうべく、今回は火鉢を使ってみようということになりました。

講座には「昔のくらし」を勉強中の小学生から関心のある大人の方まで8名が参加をし、まずは暖房の効いた暖かい部屋で昔の道具や火に関する話を聞いてもらいました。ここでは旧植田家へのこの暖房道具の幾多も紹介し、

昔のくらしの中では直火を使う機会が多いということを学びました。

さて続く体験では、屋内でも特に冷えこむ土間のヒロシキ(板敷きの間)に大小2種類の火鉢を用意。炭火を熾すのもコンロではなく、かまどを使用しました。火の扱いに不慣れな学芸員が火熾しに苦戦する中、参加者は寒さに耐えて、今か今かと火の到着を待ちわびていました。

最後は無事火鉢の暖かさや炭火のパワーにふれることができ、さらに火鉢でおもちを焼いてみたりと、昔は当たり前であったも今はしない貴重な体験を楽しんでももらえました。



炭火の暖かさにびっくり！



昔の暖房と火の話 @ 講座室



小さな火鉢も体験



火熾しを応援することもたち



## 第2回「火のあるくらしとアイデア」

2月28日(日)の第2回は、前回の内容に加えて、タイトル通り、火を取り入れた昔のくらしの知恵について学びました。人数も、新たな参加者があり、10名が講座に参加しました。また今回は、昔の灯明とうみょうにちなんで「綿実油めんじつゆ」を搾しぼる体験を行いました。この綿実油は、菜種や胡麻などと比べて、搾油さくゆにかなりの技術と手間、そして種の量が必要のため、手軽に体験とはいきません。しかし今回は昔のくらしと知恵に近づこうと、体験ならぬ実験を敢行しました。

あの手この手で綿の種から中身(核)を取り出し、電子レンジを使って蒸し上げ、圧力をかけて…と、昔の工程を現代の道具を使ってアレンジしてやってみましたが、結果は敢え無く惨敗。油のようなもの(油分)は多少出ましたが、本当に「昔の人ってすごいな〜」と思いき知らされました。またいつかりベンジを果たしたい。



レンジを囲んで蒸し上がりを待つ



(油が) ちょっと出た？

## 第3回「昔の灯りを知ろう」

3月27日(日)、電気がなかった時代のように真つ暗な土蔵の中での第三回目の講座では、現在日本で唯一ハリケーンランプを製造する(株)WINGED WHEEL代表取締役の別所由加さんを講師に迎え、灯りあかの歴史とランプについて語っていただきました。

人類にとつてなくてはならない「火」は、今のくらしの中ではほとんど身近に感じられなくなっています。その火の尊さを再び感じさせ、「直火の温もり」をランプを通して伝えようとするのが別所さんです。講座では、まるでご自身がランプのように明るく、それでいて熱い思いを持たれている姿が印象的でした。

さて、今回の体験「昔の灯りの明るさ比べ」では、お皿に油の入った灯明とうみょう、昔ながらの和蠟燭わろうそくと現在の蠟燭、そして別所さん自慢の卓上ランプと嵐にも負けないハリケーンランプに、それぞれ灯りが灯ともされていきました。意外にも蠟燭が明るかったですが、ランプの灯りが一番美しく炎を保ち続けていました。



暗闇を照らすランプの灯り

別所由加さんから  
コメントをいただきました!

### ○講座に参加して

当社は大正13年よりランプの製造販売をしておりますが、ランプの灯りを語るには灯りのルーツをお話しなければなりません。私自身、今回初めて講座でお話させて頂くにあたり、「火」について学んだ事がたくさんありました。

講演をさせて頂く事自体が初めての経験で、至らぬ所も多々あったと思いますが、来て頂いた皆様到最后まであたたかく聞いて頂き、また感想も頂く事が出来、本当にありがとうございました。

今回の講座で直火の灯りを知って頂き、「灯りのロマン」に興味を持って頂いた方がいらっしゃれば幸いです。

### ○今後の目標

今後の目標は、まずもっと多くの方に直火の灯りを知って頂く事、正しいランプの使い方をお伝えする事です。

ランプが生活の灯りとして使用される事はほぼなくなりましたが、直火の温もりを感じて頂けるようなランプをこれから先も作り続けていきたいと思っています。



ランプについて語る別所さん



講座の終了後もランプの話題で盛り上がる

WINGED WHEEL製のランプですが、実は旧植田家にも残されています(次頁を参照)。今回のお話を聴いて、改めて灯りが時代を表わし、人々のくらしを映し出す存在であることを直に体感できました。

(講座担当・谷口弘美 文・安藤亮)

# 研究 のーと

Investigation  
Note

ファイル11

## 「ハリケーンランプ」

旧植田家住宅 学芸員

谷口 弘美



大正時代の燭台式  
置き(座敷)ランプ



現在、展示中(土蔵)の  
ハリケーンランプ



火屋に刻まれた「翼と車輪」のマーク

旧植田家住宅には行灯あんどんや燭台しよくたい、和蝋燭わろうそく、ランプ、電球といった昔の灯りの道具が数多く残されている。今回はその中から、電灯に替わるまで人びとの間で長く使われてきた「ハリケーンランプ」を紹介する。

灯りの歴史は古いが、日本にランプが伝えられたのは江戸末期頃といわれ、明治期には国内でも製造された。それまで使われていた灯明や蝋燭よりも炎が明るく、明るさの調整もできるランプは、当時、画期的な道具だっただろう。

一般家庭では、テーブルや台の上などに置いて使用する置きランプよりも、吊りランプがよく用いられたそう。ちなみに、旧植田家では吊りランプ以外にも、贅沢品とされた置きランプもいくつか收藏されている。

今回の「ハリケーンランプ」は、吊りランプの一種であるが、机などに置くこともでき、火屋を固定するための金具や火屋の両端にある柱が特徴である。名前の由来は、ハリケーン(嵐)の中でも火が消えずに使えることから名付けられた。

旧植田家のハリケーンランプを見てみると、ガラス(火屋)の側面に「翼と車輪」のロゴマークがついている。これは、現在、日本で唯一残るランプメーカー「株W I N G E D

W H E E L」製のものであることがわかった。同社は、大正一三年(一九二四)、大阪市内に創業し、戦前に生産の最盛期を迎え、需要が減った戦後にはアフリカを中心とした発展途上国へと販路を切り替えるなど、ランプ製造の技術を代々守り続けてきた。そして、平成一六年(二〇〇四)に大阪市内から八尾市北亀井町に拠点を移し、現在に至る。

このハリケーンランプを現在の代表取締役である別所由加氏に鑑定してもらった結果、昭和の始め頃の製造で、現存する数が少ない貴重なものであることが判明した。また、今ではガラスの火屋を作る職人もいないため、火屋だけをかえるということも難しいという。当時、大阪には3社のランプメーカーがあったといわれ、植田家の人びとがその中から「W I N G E D W H E E L」製のランプを使用していたこと、またその入手した時代や背景については分かっていない。

今回、このランプが残されていたことで、当代の別所由加氏とも交流が図れ、古くからの植田家との縁を感じざるをえない。

ちなみに筆者は平成27年度末をもって当施設を退職するため、「研究のーと」はこれにて一時終了とする。

# 三会所だより (8)

## く加賀屋新田会所でのボランティア活動く

「住之江のまち案内ボランティアの会」は区の後押しを受けて、平成十五年に発足しました。以後、大阪市指定文化財としての会所跡の素晴らしさや住之江区のよさを伝え広げる活動を続けてきました。今では、会の存在が区民に認知されつつあり、活動の輪も広がってきています。この一年を「つたえる・つながる・まなびあう」の視点でご紹介します。

## へつたえるく

加賀屋新田会所跡への来場者数は年間七千名を超えるようになりました。私たちは、毎日曜日に会所の案内活動をし、予約があれば平日でも実施しています。今年も「毎日前を通りながら何かなど思っています。今日来て、こんな立派で歴史的建造物だと分かり、感激しました」等の感想が多く聞かれました。



庭園でのガイド活動

## へつながるく

新田開発の苦難と先人の功績そして加賀屋新田会所跡のよさを広く知ってもらうには地域の方々とは結びついた活動が大切です。「加賀屋新田寄席」は会所跡を身近に知っていただき町内会とも親密になるきっかけになっています。今年も、住之江区老人福祉センターの誕生会に招かれ、紙芝居「加賀屋甚兵衛物語」などをお見せし、三月には会所跡と周辺の古い街並、新田開発と関わる神社等も案内しました。区民祭りや公園フェスタなど区のイベントには毎年参加し、今では多くの催しで一画を占めるようになっていきます。



老人福祉センターでの紙芝居



「加賀屋新田会所寄席」

## へまなびあうく

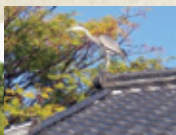
会員自身の学習への要求は強いものがあります。今年度は、加賀屋甚兵衛の生まれ故郷、

富田林の寺内町を巡り、郷社であった美具久留御魂神社を参拝しました。また講師を招き春日出新田について学習し、大阪湊口新田についての造詣を深めました。今年度に制作した紙芝居「釜口政吉と平林の埋め立て」は学習成果の現れといえます。

(住之江のまち案内ボランティアの会 渡邊)



近隣小学生との郷土学習



アオサギと鳳鳴亭



## ●加賀屋緑地(加賀屋新田会所)

場 所：住之江区南加賀屋4-8  
交 通：地下鉄「住之江公園」駅下車  
徒歩15分・市バス「南加賀屋四丁目」下車徒歩5分  
休園日：月曜日、年末年始  
開 園：10時～16時30分  
入場料：無料  
問合せ：06-6683-8151(管理事務所)



座りよいスツール(腰掛)づくり

# なにわの伝統野菜 栽培日記

No.28

## 【畑だよ！全員集合〜へりベンジ編】

恐怖の「カナブン事件(※)」から早や3年、老眼が進むとともにめつきり物忘れも激しくなったせいか、再度トウモロコシを育てることにした。「あの光景を忘れたんかい！」とスタッフにツっこまれそうです。が、いえいえ、大丈夫なんです、たぶん。

本来、トウモロコシの種まきは5月。だが今回はまだ寒い2月中旬に種を植えた。かなりの早まきだが、コレがミソ。

種まき後、黒マルチで地温を上げ、寒冷紗かたれいしや



もろこしハウス



新畑メンバー



トウモロコシの苗

とビニールでの二重保温、小さな空気穴だけ開け、冷気を極力シャットアウトした「もろこしハウス」の中で温々育てた。すると10日ほどで一斉に芽が出、その後、暖かい日が続いたことも幸いし、4月の初めには20センチほどに成長し、畑に植えかえた。

こうして早い時期に大きく育て、虫が出たす頃には「ハイ！収穫〜」とカナブンの先を越す予定だ。

今期も申し込み多数で抽選となった体験農園だが、新しい子どもも加わり、ますます賑やかな畑メンバー総勢15名。ひとり1本、自分の名前を書き、責任をもって収穫まで育てる。さて、思わく通りリベンジなるか？それともまた、あの恐怖を味わうのか。怖いもの見たさで、ある意味楽しみでもある。



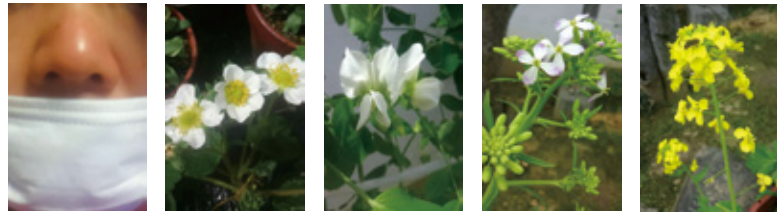
※収穫目前の丸々太った甘いスイートコーンに一匹のカナブンが頭をつっこんでいた。虫が大の苦手な私のかわりに別のスタッフが追い払おうと少し皮をめくると、出てくる出てくる大量のカナブン!!次から次へとウニョウニョ出てくるその姿は、世にも恐ろしい光景だった。(これで二度とトウモロコシは作らない!と心に誓った)

## クイズ

なんの花かな？

正しい組み合わせを線で結んでみよう。

結局、一本のトウモロコシの中に10匹以上が入り込んでいた。30本以上あった「甘いやつ」は、ネットをしていたにも関わらず、ほぼ食いちらかされ、無事だったのは6本のみだった。(栽培日記18号より)



- いちご
- 田辺大根
- レディKAMA (畑担当)
- ウスイエンドウ
- 天王寺蕪 (カブラ)

# 植松のまち・ひと

## 第十七回

### ◇植松史完成記念まちあるき

『ちよつと昔の植松』『旧植田家だより』25号を参照)の発行から、約一年を迎えようとする2016年1月24日(日)、その「完成記念まちあるき」が行われた。

これまでのまちあるきの中でも、この日は特に寒く、集合場所のJR八尾駅南口駅前広場のベンチには小さな氷の座布団が敷かれていた。この真冬の気候の中、地元永畑小学校区まちづくり協議会の協力のもと、子どもから大人まで総勢22名(スタッフ5名)が参加をし、植松のまちの歴史を肌で感じながら歩いた。(以下、メモ)

◎新しいもの・・・JR八尾駅駅舎と駅前

# マンジーくん

安富士 暁



### 「掛け替えのない記憶と

### 書き甲斐のないメモ」

広場、新築の家が建ち並ぶ風景、新龍華図書館と龍華出張所(コミセン)、参加者の顔ぶれ、

◎古くからのもの・・・旧奈良街道 諸寺院、  
波川神社、旧龍華出張所跡と歩道橋、旧大和川の堤跡、制札場跡と古い立て札、

◎古い新しいもの・・・町なかのペイント画、図書館傍の店の看板みたいな石碑、いつも通っているはずの道や住んでいる場所でも、風景が変わると以前の景色を思い出せないことがある。頭の中の記憶のメモは案外頼りにならない。が、それは掛け替えのないものである。もう一つ、今回のようなメモはいくらでもあつて、何かと書き甲斐のないものである。



歩道橋を渡って移動



旧出張所(左)と新しい図書館兼出張所



お店の看板に紛れて建つ「鏑矢塚」の石碑



ペイント画を  
発見!



こんな所にも氷が...

## 落穂拾い

## ― 今東光の董風 ― (二十二)

文・伊東健

百舌鳥・古市古墳群を世界文化遺産に登録しようという活動に接するたびに、今東光が八尾市から千葉県佐倉市に転居する時に残っていた言葉を思い出してしまいます。東光の計報記事を掲載した昭和五十二(一九七七年)九月二十日付の大阪新聞で紹介されているのを引用するところです。

日本人の原点は河内や。

学説では大和王朝と並ぶぐらいの実力王国がこの辺にあったんや。これから河内音頭ばかり踊つたらんと、河内王朝の実在を天下に知らせて、どんとえらいとこを、見せたりなはれ

この言葉に込められている温かい励ましは、昭和四十二年に刊行した『大和朝廷』で河内王朝説を提起し、生涯かけて日本の古代を東アジアとの関係の中で鮮やかに説明してくれた古代史

学者の上田正昭氏に向けたものではなかったかと、勝手に僕は考えていました。

残念ながら、東光との関係は不明ですが、二人が同一の書籍に登場しているのが『人物探訪 日本の歴史』第一巻「古代の豪族」(暁教育図書、昭和五十年二月二十日発行)です。このシリーズは全二十巻というものですが、全巻を通じての編集指導が海音寺潮五郎、奈良本辰也、尾崎秀樹を中心に、当代随一の作家、学者、評論家が、競って独自の歴史解釈を執筆して、歴史への興味と関心を駆り立てるという構成でした。

ここでは、物部氏と蘇我氏の争いは排仏と崇仏に起因するという定説を深掘りし、蘇我氏もたらした建築文化について、二人が同一の見解を述べているのが印象的です。

(上田氏は鼎談の席上で以下のように。)

蘇我氏というのは、当時の開明派ですね。ですから、先進的な朝鮮渡来の文化は積極的に吸収している。蘇我氏の建てた法興寺つまり飛鳥寺というのは、伽藍配置が高句麗式で、瓦は百濟様式ですね。そして、そこに最初に住んだお坊さんは、高句麗の慧慈と百濟の慧聰です。ですから朝鮮渡来人とその文化をいかに

してわがものにしようかということで、開明派の人々は大いに努力している。

(東光は自らの執筆により以下のようにな。)

ここで注目すべきことは、稲目と馬子父子の仏教入信によって日本にはじめて寺院や塔などの建築が行われたということだ。それまで宮廷建築さえ今に残る出雲大社の本宮のごとき物だったのが、蘇我氏父子によって帰化人らの技術を導入してはじめて寺院建築という本格的な建造物が飛鳥の都に建ったということは、蓋し大きな驚異であつただろう。巧緻な建築技術によって先進国同様の寺院建築を顕示することは、同時に一大デモンストレーションでもあつただろう。当時の日本人は歴史あつて初めて壮大な建築物を見て、ますます崇仏に傾倒していくのは当然だつたと思われる。それだけに、そういう技術を持ち合せていない物部氏や中臣氏がどんなに地団駄踏んで口惜しがったかは測り知れない。

古代の人々の価値変動が実感として伝わってくるようです。百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録にも尽力した上田氏ですが、平成二十八年三月十三日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

【2016年5月～7月】

# 旧植田家住宅のご案内

## 今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」

// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

### 展示

◎4月28日(木)～6月27日(月)

企画展「ぼく、墨蹟(ぼくせき)」

◇5/5(祝) ギャラリートーク(学芸員による展示解説)

◎7月2日(土)～9月11日(日)

企画展「植田家のお茶道具」

◇7/18(祝)・8/11(祝)

ギャラリートーク(学芸員による展示解説)

※ギャラリートークは14:00から20分程度

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

### 企画

(詳しくはお問い合わせください)

◎5月

7日(土) 植松灯笼の日(夜間開館)

28日(土) 講座「八尾と今東光」講師:岡本俊樹(今東光資料館)

◎6月

11日(土)・12日(日) 八尾再発見!映像に見る八尾

26日(日) 連続講座「水(みず)①」(大和川付け替えのお話)

◎7月

16日(土) 講座「八尾市の文化財」

28日(木) こどもガイド体験講座1

31日(日) 連続講座「水(みず)②」(内容未定)



## 休館日カレンダー

■ = 休館日

□ = イベント開催日

5 May

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6 June

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7 July

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始  
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般200円(団体20人以上で100円)  
高校・大学生100円(団体50円)  
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者  
および介助者は無料

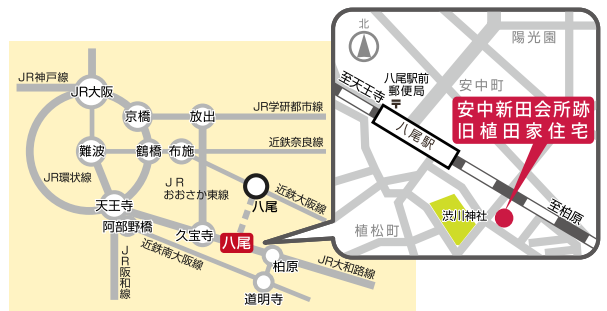
●お問い合わせ

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail:info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前

JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

